

屋根外装工事の坪井利三郎商店は、建物の瓦をふく職人を正社員として採用し育成している。「ルーファーマ制度」と呼ぶ独自の職務等級制度を採用し、瓦ふきでは最高難度とされる社寺仏閣の屋根施工ができるようになるまでの育成体制を整えている。日本の伝統技術の継承役を担うと同時に、業界の課題となっている職人不足の解消に取り組んでいる。

坪井利三郎商店



抱負を述べる佐藤氏(右)と山本氏



同社は瓦をふく職人を「ルーファーマ」と呼び、技術力によって3段階12等級に分けている。126項目ある評価基準をクリアすることで、一番下の「ヘルプ

伝統担う瓦ふき職人育成

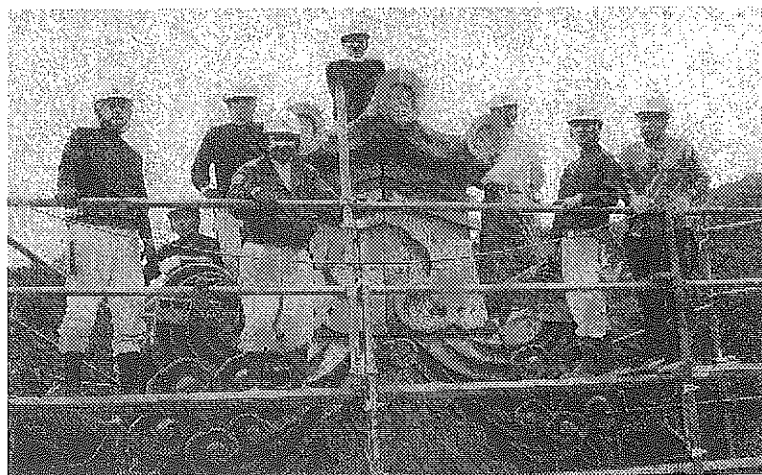
ルーファーマ」から一般住宅の瓦がふける「サブルーファーマ」、最高位の「メインルーファーマ」へと昇格して

いく仕組みだ。評価基準項目には瓦に関する知識に加え、「朝夕のあいさつ」や「チームワ

ークの改善」「施主との打ち合わせ」なども含まれる。知識と技術を身に付け、リーダーとなる資質を持った

これまで育てたルーファーマは100人以上。現在は社員職人31人が在籍し、4月には2人が入社予定だ。坪井社長は「多くの職人を有する」という点では、当社は日本一だと思ってい

マイスター制度に着想 体系的な3段階12等級



大本山方広寺本堂(浜松市)の大棟鬼瓦を施工するルーファーマら
人物を育てると同時に、職人を若者が憧れる地位と名誉を持った職業にしようとしている。
ルーファーマ制度の制定は約25年前。当時から将来的な職人不足への危機感を抱いていた坪井進悟社長が、ドイツの職人の資格制度「マイスター制度」を参考に発案した。「昔ながらの見て学ぶ」という方法では若手は育たない。体系的な育成制度が必要」と考えたからだ。

建設業界の課題となっている人手不足の解消に向けている。今後、職人不足が顕著なコンクリートの打ち継ぎや足場の組み立てなどの技術をルーファーマらに習得させ、多能工化を図る方針だ。オールラウンドな職人を育成し、業界屈指の技能集団をめざしている。

〈プロフィール〉 本社は名古屋市 中区栄5の22の7。1902年7月創業。一般住宅や社寺仏閣以外に東京ディズニーシー(千葉県)など商業施設の屋根施工も行う。従業員数は60人(2014年3月時点)。

したい」と強調した。また、山本氏は、レクサスインターナショナルエグ

自動車の補修部品や付属用品の事業を担当する。「世界的には架装や特装の

ンドとして認められるような製品群を確立したい」と語った。

本名アテンザ)や、スポーツタイプ多目的車(SRV)の「CX-5」の売